

おいしさ、そして、いのちへ。  
Eat Well, Live Well.  
AJINOMOTO®



※料理・食器は参考資料をもとに再現したイメージです。

偉人の食卓

The recipe made him  
a great man.

チャップリン

好物は革靴より  
天ぷらです。

1932年(昭和7年)チャールズ・チャップリン  
初来日の際、彼は日本橋「花長」の天ぷらを  
いたく気に入り30尾以上をたらいらげた。

帰国船に選ばれた氷川丸は、

「天ぷら男」の異名を持つ喜劇王をもてなすために  
コックを「花長」で修行させたという。

チャップリンはもともと日本好きだった訳ではない。  
きっかけは、高野虎市というひとりの日本人との出会い。

裕福な生まれを捨てて渡米し、

チャップリンの運転手として採用された高野。

日本人ならではの気配りに感銘を受けたチャップリンは、  
やがて一家を仕切る秘書にまで彼を昇格させる。

高野に天ぷらを作らせたが「こんな味じゃない」と

自ら醤油をどぼどぼと入れたり、

好物のパンケーキ店を探して

マンハッタン島の端から端まで

延々と一緒に歩かされたりと、

生来の完璧主義で高野を困らせたチャップリン。

しかし、高野との出会いがなければ、

チャップリンは日本の文化にも日本の料理にも

興味すら示すことはなかったかもしれない。

人との出会いは、新しい世界との出会いであり、

新しい食との出会いでもあるのだ。

食は人をつくる。



Charles Chaplin



©Roy Export SAS / 日本チャップリン協会